

SSKO

NPO法人 共に歩む市民の会 会 報



2021年3月20日 発行

共に歩む市民の会広報委員会

横浜市旭区鶴ヶ峰 2-2-4

☎045-453-8386

<http://tomoni-people.net/>

【通算 11 年間お世話になりました】

旭福祉保健センター 横山秀昭

1994年に旭保健所(当時)に医療ソーシャルワーカーとして赴任し4年間、そして2014年に再び旭区に転勤し7年間、通算11年間にわたり旭区で医療ソーシャルワーカーとして働く中で、共に歩む市民の会やほっとぼっとのみなさん、そして多くの関係分野の皆さんには大変お世話になりました。

1994年当時旭区は当事者活動が活発で、ソフトボール大会などがありました。神奈川病院ディケアチームが強く、試合をする当事者に真剣にはっぱをかける今は亡き佐伯先生の姿が懐かしく思い出されます。そのような当事者参加の取り組みがその後の当事者中心のたまり場運動につながりました。資金集めが大変でしたが、この運動を通して、当事者と同じ目線で活動をすることの意義を勉強できたと思います。この運動が生活支援センターほっとぼっとの設立へと発展していったことは皆さんも周知の通りです。

そして、2014年に旭区に戻りました。地域自立支援協議会の活動がとても活発であることには驚くとともに、時代の流れを感じました。専任職ということもあり、役割を持ちながら自立支援協議会に関わることができました。昨年旭区に来たMSWは「旭区は半端ないほど行事が多いですね。」と言っていました。自立支援協議会関係や精神障害者関係の普及啓発事業は数多くあります。8050問題がクローズアップされていますが、普及啓発はまだ必要とされています。大変ですが、とてもやりがいがあり、この活動を通して多くの事を勉強することができたとともに、地域関係者との信頼関係を構築することができたように感じています。

11年間本当にお世話になり、ありがとうございました。4月からはお隣の瀬谷区で働きますので、いろいろとお世話になると思います。これからもよろしく願います。



【2020年度を振り返って ～互いのリスペクトでつながる社会へ～】

理事長 村岡福藏

中国大陸内陸部に生息する動物を宿主としていたウイルスが瞬く間に、文字通り世界を席卷し、SF映画の中で起きることと思っていた世界が現実になった1年でした。日々、亡くなられた人の数が報じられ、人間はあくまで自然界に規定された小さな存在であることを、改めて気づかされる機会ともなりました。

人と人の間に距離を取ることや「新しい生活様式」が提唱されています。しかし、視覚障害者や濃厚な介助が必要な人にとって、それはそのまま命に関わります。マスクは聴覚障害者にとっては新たなバリアとなります。

そもそも、人は一人で生きていくことはできません。その思いを人一倍強く抱いているのが精神の病を持つ人たちです。困難な時こそ、人間にはつながりが必要です。

中国の作家・方方さんは、『武漢日記』に「ある国の文明度を測る唯一の基準は、弱者に対して国がどういう態度を取るかだ」と綴りました。

共に歩む市民の会は、様々な生きづらさを抱えながら頑張る方々との関わりの中で、互いに学びを続けて

きました。その積み重ねの上に今があります。方方さんの言葉に触発されながら考える中で、より明瞭になったのは「互いにリスペクトしあうことで、誰も弱者にしない社会」こそ、私たちが希求する社会の姿だということです。

こんな時だからこそ、互いにリスペクトし合うことでつながりを深め、誰も置き去りにすることのない社会に向けて歩みを続けていこうと思います。

語らい電話が社会福祉功労顕彰を受賞しました！

今から21年前、共に歩む市民の会が設立される前から「たまり場」で活動を始めた「語らい電話」という傾聴ボランティア活動です。その永年の功績を認められ、令和2年度社会福祉功労顕彰を受賞いたしましたのでご報告いたします。

旭区社会福祉協議会より地域福祉功労表彰を、さらに横浜市社会福祉協議会障害者支援センターより感謝状をダブルでいただくという光栄にあずかりました。



代表の方に賞状を受け取っていただきました

【「語らい電話」が始まるまで】

理事 高野静子

旭区では、区内の作業所、グループホーム、デイケア、家族会、ボランティアと一緒に、精神の病を抱えながら地域で生活するための支援について話し合いを行いました。メンバーの希望を知るためにアンケート調査を行い、その中で出された希望の一つが、今日あったことなどを話せる「電話相談」でした。

1999年、電話相談ボランティア講座を開催。多くの市民の方が関心を持ち、参加しました。電話相談を希望するボランティアと当事者などが「利用者が望む電話相談」について話し合いを重ね、名称も気軽にしゃべりが出来る「語らい電話」と決めました。

2000年5月から週1回(18時～20時)の「語らい電話」が始まりました。



【語らいメンバーの声】

- ・別にしゃちほこばって「相談」でもないから「語らい」がいいよねということで「語らい電話」にしたんですよね。
- ・設立当初はサポートの当事者が必ずいて、忘年会なども当事者の皆さんと過ごしたりしてたんですよね。懐かしいです。今、少し元気がないので昔の活気を取り戻してほしいなと思います。
- ・最初、電話を取るのがこわかった。いきなり怒鳴る人、変なことを言ってくる人がいたりして。
- ・精神障害ということを特に意識せずに、普通に話し普通に電話をすればいいと思って続けてきました。
- ・語らい部屋にお化けが出る？！
- ・ほっとぼっとの10周年記念事業の時に手伝ってくれたのが語らいのメンバーだった。語らいメンバーの方たちが市民の会の活動で大きな影響を与えている。
- ・始めたころはわからないことばかりでした。ボランティア同士で仲良くなれて、良い友達ができただけに感謝したい。
- ・単なる好奇心で始めた語らい電話でしたが、気持ちの切り替えがうまくいかず最初の頃は話をいつまでも引きずってしまっていました。それでも語らい電話での活動が今の仕事にとっても役に立っています。
- ・定年後に始めた活動だったが「言葉の大切さ」をつくづく感じた。自分の選んだ一言が間違っ受け取られたりすることもある。まだまだ足りない自分を感じる。
- ・精神的な体力が必要な活動。時によって話をしている人の体調によって自分の役割が変わる。社会的な孤立による寂しさはこの一年間、コロナの影響でみないやというほど味わったけれど、その孤立感を精神障害の人たちはずっと味わってきたのかと思う。
- ・多様性、人間一人ずつ皆違う。それを尊重し、それぞれが生きやすい社会を作ること。それが永遠の課題

だと思ふ。

- ・自分自身も年を重ねて社会に不安を覚えるようになってきた。障害のある方だけでなく生きにくい社会かもしれない。先日、久しぶりに語らい電話に入ったら、自分の声を覚えていてくれた人がいて、こんな私でもお役に立っているのだと嬉しくなった。
- ・全国にもっとこういう取り組みが広まったらいいのにとよく皆で語り合いました。それが認められて良かったなと思います。センターは相談するところだから気軽に電話してはいけないけれど、「今日、こんなことがあったんだよ」と軽く話せるところ、それが「語らい電話」だと思います。
- ・いろいろな人からお電話を受けるようになり、ちょっとした一言が相手を傷つけてしまうことがあるということも知った。本当に気を使わなければいけないけれど、相手の気持ちを思いやる、そんな気持ちを「語らい電話」は気づかせてくれた。

☆メッセージを寄せてくださった皆様に感謝します。
この活動が末永く続くことを願っています☆

【精神保健福祉セミナー開催】

去る2月27日、第22回旭区精神保健福祉セミナーがオンラインで開催されました。昨年の2月21日（開催前日）の中止の発表から一年と6日ぶり、2年越しの開催となりました。

開催方法を巡り実行委員会では様々な意見が出ました。二転三転してやっとズーム一本で開催ということが決まったのは去年の10月のことでした。そこから新たに準備が始まったのでたっぷり時間が割にはタイトなスケジュールとなりました。

今回は初めてのオンラインと言うことで、皆さんとしかにお会いすることができずに残念な思いをいたしました。反面、遠方の方にも参加してもらえたという嬉しい誤算もありました。

いつも言っていることですが当事者の皆さんには「自分だけじゃなく、一人じゃないんだよ」という思いを伝えることができたでしょうか。地域のみなさんには「みんな違って当たり前」精神障害も一つの個性として捉えてもらうことができたでしょうか。

セミナーの内容につきましては紙面の関係で割愛いたしますが、このセミナーに1年半以上に渡り関わってくれた実行委員の面々、サポートしてくださった皆さまに心から感謝申し上げます。



第77回理事会報告

日時： 2月25日（木）18：30～21：00 場所： ほっとぽっと別館

出席者： 理事：9名 職員3名

<審議事項>

- ① 通常総会の開催について
- ② 令和3年度事業計画・予算について
- ③ 臨時理事会の開催について（法人への業務委託料収支決算の承認）
- ④ 役員を選出について

2021年3月～6月 市民の会・ほっとぽっと スケジュール

★旭びあくらぶ お花見散歩 3月31日

★共に歩む市民の会第17回通常総会 6月5日（土） 於・ばれっと旭

コロナ感染拡大防止のため開催方法、開催場所等変更になる可能性があります。

後日再度連絡させていただきます。

※ 常日頃からの法人へのご協力を感謝いたします。しかしながら安定した法人運営のためにはまだより多くの方々のご協力が必要な状態です。今後ともよろしく願いいたします。

新規入会の方も併せて募集しております。

編集後記

初めて3月に会報を出します。暗闇の中から始まった2020年度でした。一年間を振り返るいい機会をもらえたように思えます。一年先の話をするとうに笑われてしまうかもしれませんが、どうぞ来年の3月には晴れ晴れとした気持ちで会報を送り出すことが出来ますようにとお祈りします。（國井）